

公民科（現代社会）シラバス

政経	単位数	2単位	学科	普通	学年	第2学年
----	-----	-----	----	----	----	------

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1. 思想や宗教の学習を通して、異文化に対する理解力を高める。</p> <p>2. 現代の政治、経済、国際関係などについて、様々な観点から考察し、それに対する自分なりの意見を持てるようになる。</p> <p>3. 近い将来の有権者として、投票の際の基準となる基礎的知識を習得し、公正な判断力を養う。</p>
使用教科書・副教材等	実教出版「高校 現代社会」、帝国書院「ライブ！現代社会2018」

2 学習指導計画及び評価方法等

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)	考査	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
前期	4	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己形成	人生における青年期の意義を理解し、人生や将来を肯定的に捉えることができるようになる。	生まれてから高校生になるまでの自分の人生をもとに、あるべき姿と現実の姿を照らし合わせて考えさせる。	前期 中間 考査	青年期を現在の自分のこととして、関心をもつ。自己自身の生き方や在り方について考えようとする関心や意欲をもっている。	青年期の課題を現在の自分のこととして考え、その解決に向けて模索している。	青年期の課題に関連した芸術作品や様々な資料から、その課題を自分の言葉で表現することができる。	青年期、マージナルマン、第二反抗期、第二の誕生、モラトリアムについて理解し正確な知識をもっている。自己自身の生き方や在り方について、アイデンティティやモラトリアムといった言葉を適切に使うことができる。
	5	第2章 他者と共に生きる倫理 1 ギリシアの思想 2 宗教の教え	古代の思想や宗教の普遍的価値を理解し、実践しようとする姿勢を持つ。	学習した知識を活用して、社会の問題や個人の悩み等に対する解決策を探るような問いかけを行う。		学ぶことの意義、人間の幸福と科学、人間の尊厳、正義と自由の意味を意欲的に追究し、民主社会において自ら生きる倫理について考えようとしている。	学ぶことの意義、人間の幸福と科学、人間の尊厳、正義と自由の意味について自らの人生とかかわらせながら考察し、現代の社会に生きる青年としていかに生きるかについて社会生活の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	学ぶことの意義、人間の幸福と科学、人間の尊厳、正義と自由に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、人間としていかに生きるかについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。	学ぶことの意義、人間の幸福と科学、人間の尊厳、正義と自由の意味などについて理解し、その知識を身に付けている。
	6	3 人間の尊厳 4 人間の自由 5 個人と社会	個としての生き方を自覚し、実践しようとする姿勢を持つ。	普通の生活において、これらの思想を活用できそうな場面を多く設定して、より具体的な説明を心がける。		実存主義について、関心を持ち、探求する意欲と態度をもっている。	実存主義は私たちにも深く関わる思想であることを認識できる。	歴史資料に拠りながら考え、その結果について文章に書くことができる。	実存主義者キルケゴール、ニーチェ、ヤスパース、さらにハイデガー、サルトルについて正しく理解できる。
	7	6 日本の伝統思想と外来文化の受容	日本の文化や伝統が外来のそれらと密接な関係のもとで形成されたことを理解する。	日本文化の独自性と、それが形成されるまでのプロセスを外国との関係を強調して説明する。	前期 期末 考査	わが国に古来から根付いている思想や外来思想の受容・伝統について意欲的に追究し、日本人の自然観や倫理観がどのように形成されたのかについて考えようとしている。	わが国に古来から根付いている思想や外来思想の受容・伝統について、自らの価値観などを参照しながら考察し、日本人としての自然観や倫理観や在り方生き方について公正に判断している。	様々なメディアを通じて収集し、日本人の自然観や倫理観の形成過程についての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。	わが国に古来から根付いている思想や外来思想の受容・伝統について理解し、その知識を身に付けている。
	8	7 人間への新たな問	現代社会における諸問題とそれに対する新しい思想を理解する。	科学の発展とそれがもたらす新たな問題に着目させ、それぞれの時代における諸問題と、その解決に向けて生まれた思想の関係を協調する。		一般に理性主義への反省、生命や無意識への注目、公正や正義についての新しい考え方に於いて成立していることを踏まえて理解しようとしている。	ガンディーやシュヴァイツァー、ホルクハイマーの思想を概観し、そうした思想に拠って現代の倫理的諸課題について考え適切な判断を行うことができる。	メディアの資料などの情報を活用して、考察し、その結果を文章にまとめることができる。	生命への畏敬、フランクフルト学派、構造主義などの諸概念を理解できる。
	9	第3章 現代の国家と民主政治	民主主義政治の本質を理解し、政治参加の重要性を理解する。	有権者としての自覚を高められるよう、主権の重要性に気づかせる教材を用意する。		現代の民主政治に対する関心を高め、民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方を意欲的に追究し、考えようとしている。	民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	メディアを通して収集し、民主社会に主体的に生きる人間の在り方について学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。	・国民主権と議会制民主主義など日本国憲法の基本原則と世論形成や政治参加の意義、民主政治の課題について理解し、その知識を身に付けている。

後期	10	第2編現代の経済 第4章 日本国憲法と国民生活	憲法の最高法規性を理解し、国のあり方を理解できるようになる。	憲法の重要性に気づかせる。	後期中間考査	・日本国憲法の基本原理について、課題を出し、検討している。	・日本国憲法の諸問題について、多角的に考察している。	・資料収集において、メディアを適切に使っている。	・基本的な事項を理解している。
		第5章 国際政治の動向	国際社会の働きを理解し、外交のあり方を理解できる。	これまでに学習した世界史Aの内容を踏まえた発問を心がける。		・国際政治と国際法を客観的に考えている。	・国際紛争の要因を考察している。	・各種メディアから資料の収集をしている。	・国際政治の特質や国際連合の役割などを理解している。
	11	第6章 現代の経済社会と政府の役割	身の回りの経済的事象を、身につけた知識を用いて理解できる。	スーパーやコンビニなど身近な話題を多く用意し、学問と社会の関係が密接であることを気づかせる。	・経済の発達の移り変わりについて、関心をもっている。	・資本主義経済と社会主義経済等について、国際比較を行っている。	・資料を適切に使っている。	・資本主義の移り変わりや現代資本主義の特質について、理解している。	
	12	第7章 経済活動のあり方と国民福祉	身の回りの経済的事象を、身につけた知識を用いて理解できる。	スーパーやコンビニなど身近な話題を多く用意し、学問と社会の関係が密接であることを気づかせる。	・経済のしくみについて関心をもっている。	・現代の日本経済の課題を見出している。	・現代の日本経済に関する情報収集を行っている。	・現代経済のしくみについて、理解している。	
	1	第8章 国際経済の動向	価値観の多様性をベースとした外交や貿易等の協力関係のあり方を理解できる。	新聞等のメディアを多く活用し、歴史や政治・経済・文化等様々な関係の中での国のあり方を考えさせる。	後期期末考査	・冷戦終結後の国際経済に関する諸問題に対する関心が高まり、国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の果たす役割について意欲的に追究し、国際社会における日本の責任と役割について考えようとしている。	・冷戦終結後の国際経済に関する諸問題から課題を見だし、国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の果たす役割について公正に判断している。また、これらを追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。	・冷戦終結後の国際経済に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、収集した資料の中から国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の果たす役割について学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。	・経済の国際化、労働力・資本・技術・情報などの地球規模での移動や貿易の拡大と不均衡、南北問題などを理解し、その知識を身に付けている。
	2～3	国際経済の動向	価値観の多様性をベースとした外交や貿易等の協力関係のあり方を理解できる。	新聞等のメディアを多く活用し、歴史や政治・経済・文化等様々な関係の中での国のあり方を考えさせる。					
<p>評価方法 : 前・後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査、発言の様子、グループ活動の様子、課題の提出状況による総合評価。 ・ 評価は、社会的事象への関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の観点別に行う。なお、「知識・理解」については考査評価から、「意欲・関心・態度」については授業での様子や発問に対する返答等から行い、「資料・活用の技能」、「思考・判断・表現」は小テストや授業での様子から評価する。 									